



県立病院ニュース

病院に関係する全ての人から信頼される病院を目指して

第143号 平成28年7月 病院局発行

平成27年度決算概要

- 平成27年度の収益的収支(税抜)純損益は約94百万円(収益71,996百万円、費用71,902百万円)と、黒字
- 新会計基準移行に伴う特別損失の計上が今年度必要ないことや診療内容の充実等により診療単価が増加したこと、一般会計繰入金が増加したことなどが要因
- 平成28年度当初予算では約19.7億円の赤字予算であり、引き続き地域の医療ニーズに応えながら、収支改善に積極的に取り組んでいくことが必要



〈収益〉 H26年度 約748.1億円 → H27年度 約720.0億円 (▲28.1億円)

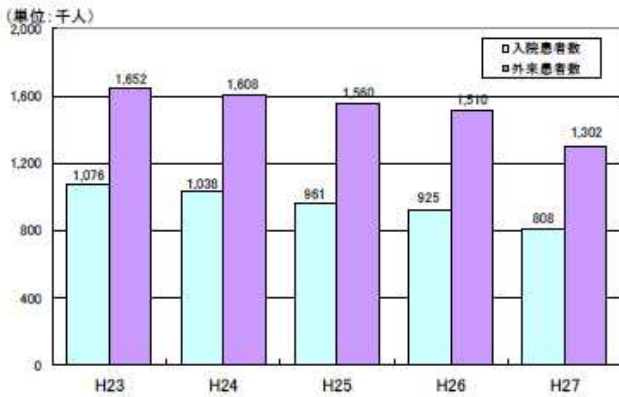
- 六日町・小出病院の閉院により患者数が減少したため診療収益は減少。
- へき地医療や高度専門医療などの政策医療を提供する病院への繰入金は増加。
- 六日町病院敷地等の売却に伴う特別利益を計上。

〈費用〉 H26年度 777.4億円 → H27年度 719.1億円 (▲58.3億円)

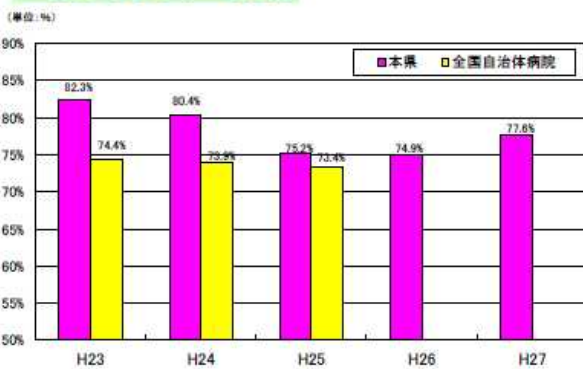
- 六日町・小出病院の閉院により給与費や材料費等の費用は全般的に減少。
- 医療機器の更新に伴い減価償却費は増加。
- 特別損失は、会計基準見直しに伴う移行処理を行った昨年度から皆減。

主な統計データ

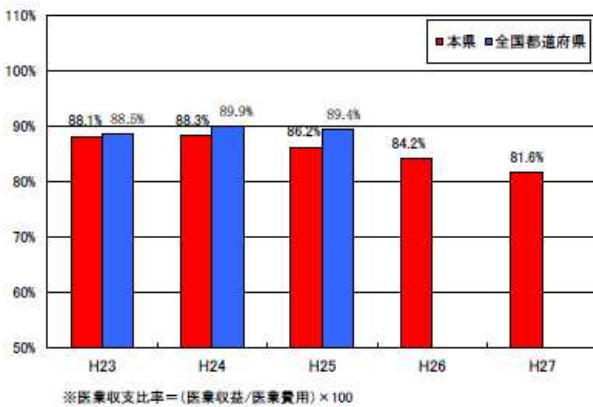
患者数の推移



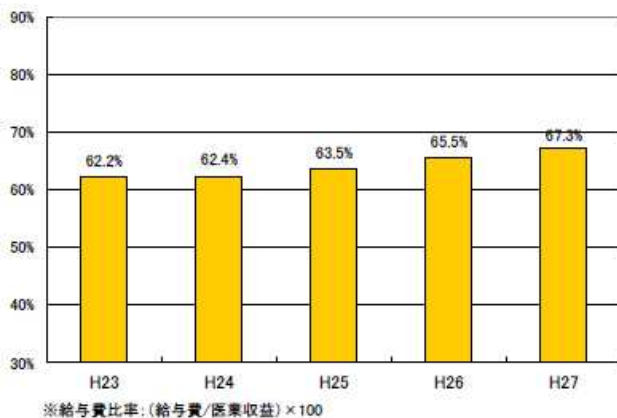
病床利用率の推移



医業収支比率の推移



給与費比率の推移



・入院は、救急患者・紹介患者の増加などにより5病院で増加したが、医師の減員や在院日数の短縮、外来診療へのシフト、閉院などにより10病院で減少した。

・外来は、救急患者・紹介患者の増加などにより6病院で増加したが、医師の減員や診療日数が少ないこと、閉院などにより9病院で減少した。



「出向く医療」～訪問看護

・六日町・小出病院閉院による医業収益の減少に伴い、医業収支比率は2.6ポイント減少。



PET-CT 装置 (新発田病院)

・六日町・小出病院閉院による給与費の減少以上に医業収益が減少したため、給与費比率は1.8ポイント増加。

※決算情報の詳細については、病院局ホームページの予算・決算情報でご確認ください。

訪問リハビリテーションはじめました！

柿崎病院の取組 主任理学療法士 植木康之

「急性期病院が最先端の医療を提供するならば我々は地域にとって最前線の医療を提供して行こう」という病院長の方針を受け、平成27年9月から訪問リハビリを開始しました。7月から関連職種（特に地域連携室、医事企画員）が一丸となり準備を始め、訪問手順の作成や、訪問専用車両も配備するなど、万全の態勢を整備しました。

まずは、訪問診療をされている方の中から近隣にお住まいの方、数名を対象とし、拘縮進行予防、肺炎予防などについて家族指導を含めながら、週1回ないし2回訪問し、約40分程度のリハビリを実施しています。平成28年4月までの約8か月間の訪問件数は約90件です。

1例をご紹介しますと、65歳、男性、くも膜下出血後遺症で寝たきりC2の方です。ご家族は長い間訪問リハビリをご希望されており、ようやく実現し大変お喜びいただいています。

「痰がらみが少なくなり楽になったようです」、「手が口まで届くようになりました」、「表情がよくなりました」など、ご家族から感謝のお言葉を頂く反面、責任の重さを感じているところです。



訪問リハビリ中の植木主任理学療法士



柿崎病院リハビリスタッフ

(写真左上から時計回りに)

植木主任理学療法士、木賀主任理学療法士、藤巻理学療法士、宮森理学療法士

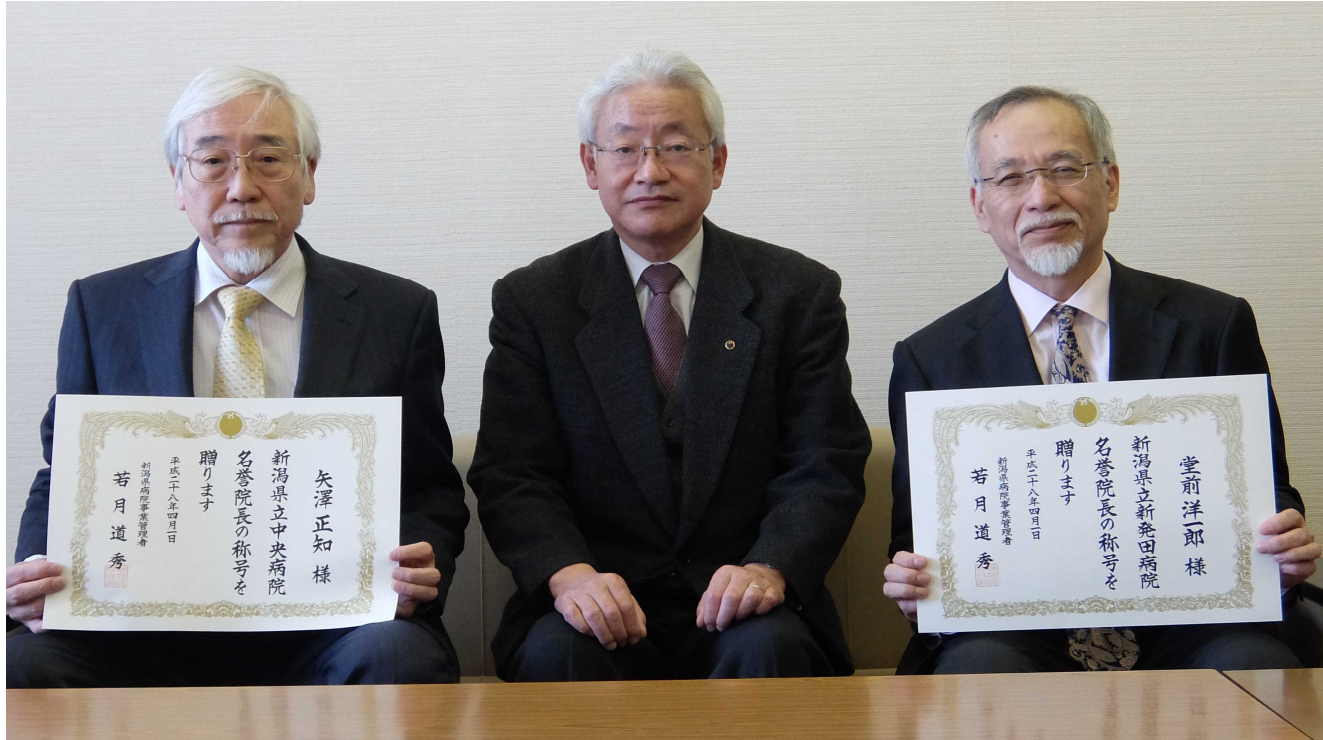
やはり介護に不安を抱くご家族が多く、「食事時の誤嚥しにくい姿勢」や「肺炎予防のために痰を出しやすくする手技」などについてご質問を頂きます。ご家族に指導させて頂いたことを後日、見事に実践されていました。

在宅で生活する上でケアマネージャー・ヘルパー・訪問看護師のみならず、リハビリ職種、歯科衛生士(口腔ケア)など多職種のチーム活動の必要性が高まっているように感じています。

今後は対象者の枠を広げていくと共に、より安全で安心な生活を提供するお手伝いを続けていこうと考えています。

名誉院長称号授与式

～中央病院前病院長 矢澤先生、新発田病院前病院長 堂前先生～



(左から) 矢澤名誉院長、若月病院局長、堂前名誉院長

名誉院長称号授与式が、3月31日病院局長室で行われ、中央病院前院長矢澤先生、新発田病院前院長堂前先生に名誉院長の称号が授与されました。

矢澤先生は、昭和52年3月新潟大学を卒業後、水戸済生会病院等を経て、平成5年に中央病院に着任し、中央病院初となる呼吸器外科医として、診療科の起ち上げに携わりました。平成13年に診療部長、平成17年に副院長を経て、平成19年に院長に就任されました。平成20年にリニアック室、外来化学療法室等の工事を完了、平成21年には地域連携センターを開設、病診連携や地域との連携を積極的に進め地域の中核病院としての機能を益々増進させました。平成27年には上越地域で初となるPET-CTの導入と内視鏡センターの増設など、上越地域における急性期医療の機能向上にご尽力いただきました。

堂前先生は、昭和52年3月新潟大学を卒業後、新潟大学医学部附属病院等を経て、昭和55年6月から1年間新発田病院に着任、その後、平成8年に再び着任され、平成12年に診療部長、平成15年に副院長を経て、平成25年に院長に就任されました。平成18年には新発田病院の新築移転があり、副院長として移転に伴う諸問題の解決や移転後の安定した病院運営に手腕を発揮されました。院長就任後は救急科の新設、院内保育所の設置、7対1看護体制への移行、地域包括ケア病棟の新設など、県北地域の基幹病院として必要な改革にご尽力いただきました。

これからも病院の運営について、ご指導下さいますようよろしくお願いいたします。

「信頼される病院づくり」にかかる取組をお知らせください！

皆様からの「こんなことやっているよ」という情報提供や投稿を心からお待ちしています！

病院局業務課改革室

E-mail: ngt400020@pref.niigata.lg.jp

